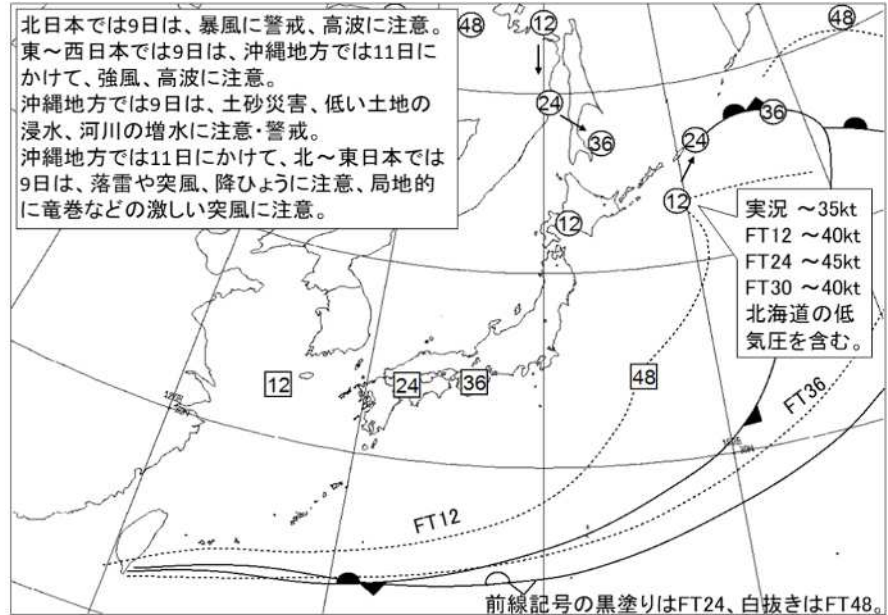


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5460～5640mで-24℃以下の寒気を伴うトラフの東側で、低気圧が北海道の西を東北東進。一方、三陸沖でも低気圧が8日夜に発生。これら低気圧の周辺では発雷を検知。
- ② 華南から南西諸島にかけて東西に中下層雲主体の雲域がのび、前線に対応。前線周辺の海上では発雷を検知し、局地的に激しい雨を解析。
- ③ 高気圧が、東シナ海を東南東へ移動。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①のトラフは、9日は一部が寒冷渦となって北海道地方を通り10日に千島近海に進む。1項①の北海道の西の低気圧は、9日に北海道地方に進み、寒冷渦の直下で次第に不明瞭となる一方、1項①の三陸沖の低気圧は、今後前線を伴って発達しながら北東進し、10日にかけて千島近海に進む。低気圧や前線の影響で、強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北日本では9日は暴風に警戒、高波に注意。東～西日本では9日は、強風、高波に注意。また、上空寒気の影響で、引き続き大気の状態が局地的に非常に不安定となる。北～東日本では9日は、落雷、突風、降ひょうに注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。北日本では10日も、上空の寒気を伴う別のトラフが通過するため、対流雲の発達に留意。
- ② 1項②の前線は、11日にかけて沖縄の南～小笠原近海にほとんど停滞する。前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり局地的に大雨となるおそれがある。沖縄地方では9日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、沖縄地方や小笠原諸島では11日にかけて、落雷、突風に注意、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項③の高気圧は、11日にかけて西日本から日本の東に中心を移して東へ移動する。高気圧に覆われる西～東日本を中心に11日にかけて晴れる所が多くなる。沖縄地方や小笠原諸島ではこの高気圧と2項②の前線との間で、北日本では11日はこの高気圧とオホーツク海の低気圧との間で、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹いて波が高くなる所がある。沖縄地方では11日にかけて、小笠原諸島では10～11日は、強風や高波に留意。北日本でも11日は、強風、高波に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ② 波浪(明日まで)：北海道・東北・関東・伊豆諸島・北陸・東海・近畿・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無

発表の予定はない。